

編集後記

JICHA ジャーナルが再起動しました。今回は、非常に多彩な先生方からの論文が揃いました。

まず、中村安秀先生の特別寄稿「だれひとり取り残さない国際小児保健医療をめざして」です。国際保健の黎明期から活躍され、JICHA の初代代表でもある中村先生の寄稿は、温かいメッセージに溢れています。中村先生のキャリアパスは、多くの人にとって参考になるものと思います。

続いて、JICHA 第3代代表である浦部大策先生の「ボランティアが持つ情報の有用性の検討」です。東日本大震災での経験を検証した論文です。現場に必要な活動が、当初の想定とは異なっていた事を検証した示唆に富む論文です。

最後は、三重大大学の堀浩樹先生の「地域圏大学による国際連携」です。地域への持続的貢献が求められる地域圏大学である三重大大学が、地域への貢献を志向しつつもグローバル社会への貢献をいかにしていくか、という課題について、三重大大学の豊富な国際協力の歴史、貢献を振り返りつつ考察されています。

これら3編に共通しているのは、いずれも現場経験に根ざしているという点です。

JICHA ジャーナルが目指すのは、まさに現場主義です。今後も、国際保健、国際小児保健の現場の声を発信して行きたいと考えています。乞うご期待！

(高橋謙造)